

環 境

環境活動レポート

東北マツダエコアクション21推進事務局

第149期活動計画及び活動報告

2014年4月1日～2015年3月31日

2014年度活動計画及び実施活動報告概要

目次

はじめに	P.3
本環境活動レポートの期間及び発行日	P.4
会社概要	P.5
拠点情報	P.6
推進委員会組織図	P.8
環境方針	P.9
中期環境数値目標	P.10
環境目標	P.11
環境活動計画	P.14
活動事例	P.15
環境活動の取組結果の評価	P.23
環境関連法規等への違反・訴訟の有無	P.29
代表者による全体の評価と見直し	P.30
次年度活動計画	P.35

はじめに

平素は格別のお引立てを賜り厚く御礼申し上げます。
弊社がエコアクション21の認証・登録をいたしまして5年を迎えました。

2014年4月の消費税増税により需要の落ち込みはありましたが、環境にもやさしいスカイアクテブテクノロジーで開発されたディーゼルエンジンを搭載した2015年2月販売開始のCX-3を始め、ガソリンエンジン・ディーゼルエンジンを選べるアテンザ、CX-5、デミオ。加えてハイブリットも選べるアクセラなど、多くのお客様にご購入頂き、環境活動に大きく貢献しているものと思っております。

2014年4月に東日本大震災により津波被害で休止していた宮城事業部多賀城店が移転・新築しオープンいたしました。工場2階に避難用のスペースを設けるなどし災害対応も考慮した店舗となっております。

2014年8月に宮城事業部長町店を移転・建替いたしました。長町店は全国に先がけ、マツダの新世代店舗として生まれ変わり、ご好評を得ております。
もちろん、LED証明の導入など環境にも配慮した設計になっております。

2015年2月には、秋田事業部中央店のショールームリニューアルを行い、長町店と同様、より環境にやさしく、お客様の過ごし易い店舗となりました。

これからも、皆様方とともに歩み続ける企業として邁進いたします。
今後とも株式会社東北マツダをご愛顧のほど、宜しく願いいたします。

株式会社 東北マツダ
エコアクション21推進事務局

本環境活動レポートの期間及び発行日

活動宣言日

平成22年01月16日

各部門・各事業部の責任者出席の会議場にて

運用期間

自平成26年04月01日

至平成27年03月31日

報告書発行日

平成27年03月15日

会社概要

組織名 株式会社 東北マツダ
代表者 代表取締役 森脇 章
本社所在地 宮城県仙台市宮城野区小田原一丁目3番23号
事務局所在地 同上
事業内容 自動車、その部品及び附属品の販売並びに修理
事業規模 拠点数 38拠点 (2015/3/31現在)
認証・登録範囲 全拠点 秋田事業部8拠点 岩手事業部6拠点
宮城事業部14拠点 山形事業部10拠点

従業員数 750人 (2015/3/31現在)
年間売上高 231.9億円
資本金 3億4千8百万円
ホームページ <http://tohoku-mazda.co.jp>
IA7アクション21取組対象組織 全組織
IA7アクション21取組対象活動 弊社、事業内容に係る全ての活動
環境活動レポート公表方法 弊社ホームページ

環境管理責任者及び担当者

環境統括責任者	代表取締役	森脇 章
IA7アクション21推進委員会総括責任者	常務取締役	藤本 敦郎
IA7アクション21推進委員会推進総括責任者	管理部部長	名久井 馨
IA7アクション21推進委員会連絡先	電話	022 (297) 2122

拠点情報

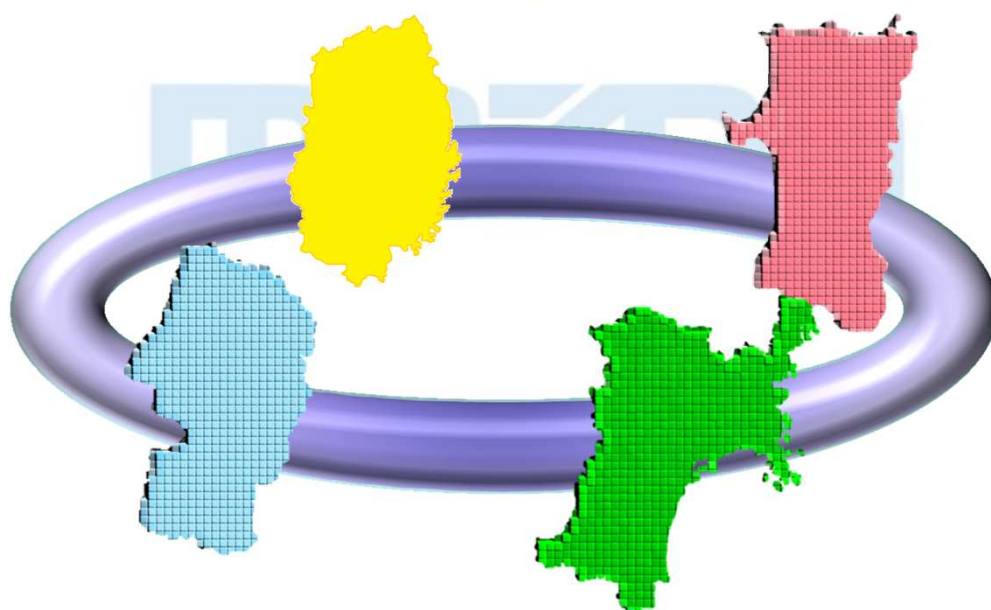
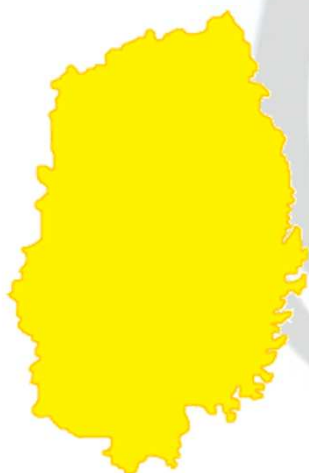
秋田事業部

秋田事業本部	010-0965	秋田市八橋新川向15-39
大館店	017-0864	大館市根下戸新町19-74
能代店	016-0871	能代市昇平岱22-11
秋田北店	011-0916	秋田市飯島字寄進田82-5
中央店	010-0916	秋田市泉北1-1-2
大曲店	014-0017	大仙市佐野町9-3
秋田本店	010-0965	秋田市八橋新川向15-39
横手店	013-0811	横手市安本字南御所野156-6
本荘店	015-0013	由利本荘市石脇字田尻野24-19



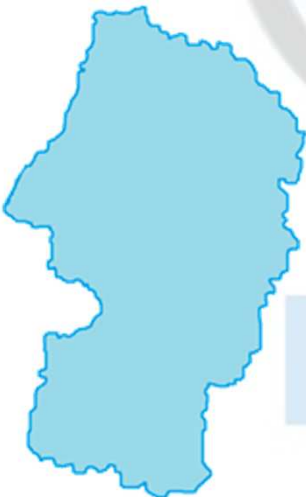
岩手事業部

岩手事業本部	020-0125	盛岡市津志田町1-5-8
都南店	020-0125	盛岡市津志田町1-5-8
上堂店	020-0125	盛岡市上堂4-8-8
花巻店	025-0006	花巻市下似内17-6-2
北上店	024-0004	北上市村崎野22-133-3
水沢店	023-0003	奥州市水沢区佐倉河字嶋館21-1
一関店	021-0051	一関市山目三反田7-1



拠点情報

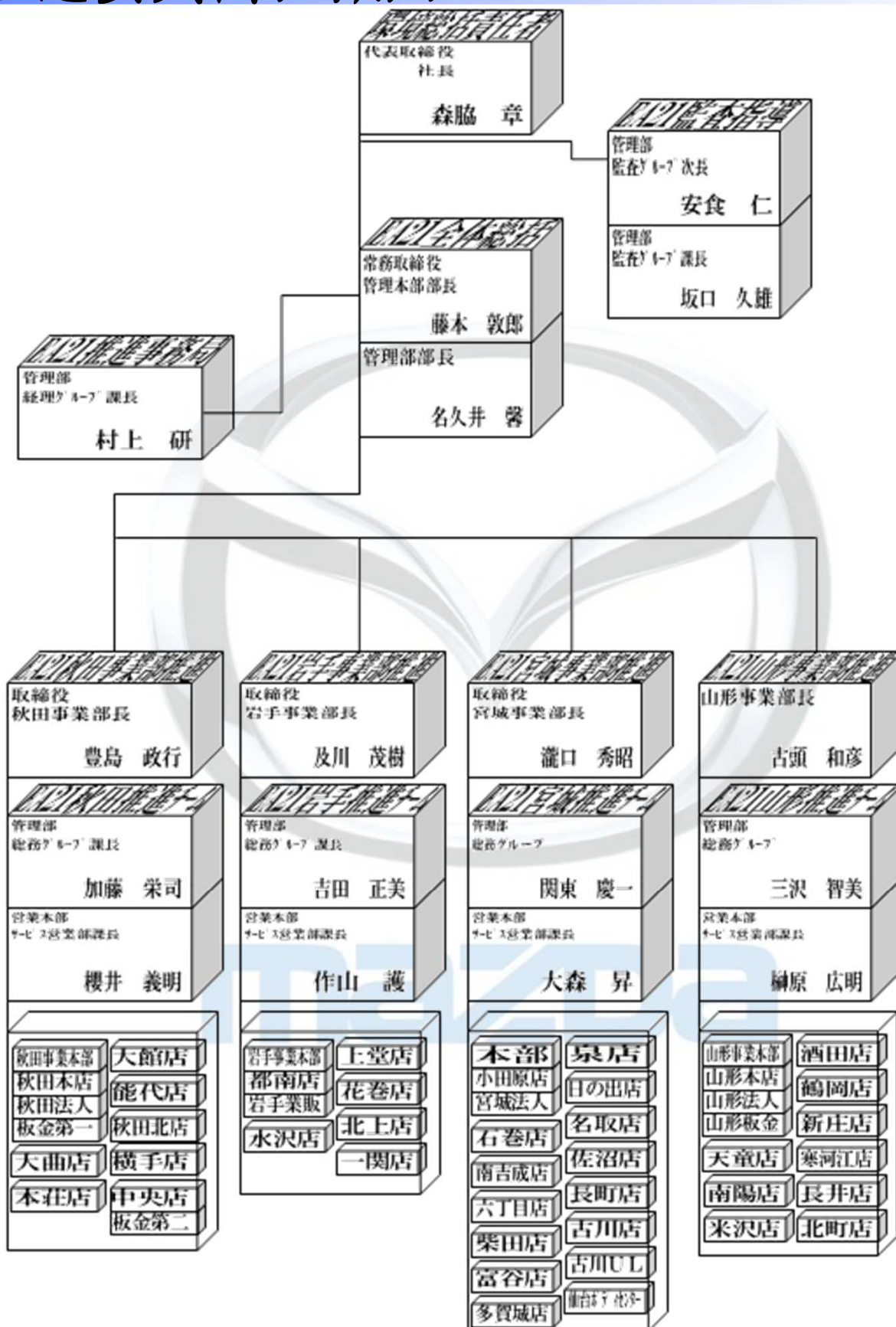
宮城事業部		
本部・宮城事業本部	983-0803	仙台市宮城野区小田原1-3-23
泉店	983-3117	仙台市泉区市名坂字御釜田121-1
日の出店	983-0035	仙台市宮城野区日の出町1-1-31
名取店	981-1224	名取市増田5-17-16
石巻店	986-0856	石巻市大街道南1-2-96
佐沼店	987-0511	登米市迫町佐沼字萩洗2-3-8
南吉成店	989-3204	仙台市青葉区南吉成2-17-6
小田原店	983-0803	仙台市宮城野区小田原1-3-23
長町店	982-0023	仙台市太白区鹿野3-15-43
六丁目店	984-0004	仙台市若林区六丁の目東町7-21
多賀城店	985-0874	多賀城市八幡2-16-36
古川店	989-6104	大崎市古川江合錦町2-3-3
柴田店	989-1604	柴田郡柴田町船岡東1-7-13
古川ユーカーランド	989-6171	大崎市古川北町5-3-3
富谷店	981-3328	黒川郡富谷町上桜木1-1-9
仙台ボディセンター	983-0034	仙台市宮城野区扇町2-4-19



山形事業部		
山形事業本部	990-0835	山形市荒楯2-1-80
山形本店	990-0835	山形市荒楯2-1-80
酒田店	998-0832	酒田市両羽町6-22
鶴岡店	997-0046	鶴岡市みどり町16-36
新庄店	996-0041	新庄市鳥越字玉の木960
天童店	994-0027	天童市桜町10-1
寒河江店	991-0043	寒河江市島字島東79-4
北町店	990-0821	山形市北町3-1-13
南陽店	999-2223	南陽市俎柳字六百刈991-1
米沢店	992-0011	米沢市中田町2-1800
長井店	993-0087	長井市横町10-28

推進委員会組織図

(レポート作成時点) 2015/8/31現在



環境方針

環 境 方 針

【基本理念】

株式会社東北マツダは自動車販売、整備等全ての事業活動を通じ
継続的に環境への負荷の軽減に取り組み、地域環境・地球環境の保護に貢献します。

【環境保全に向けての活動指針】

地球温暖化防止に向け二酸化炭素排出量削減・省エネルギーへの取組をする
循環型社会に向け、使用済み自動車・廃棄物リサイクルの推進をする
事業活動に適用される環境関連法規その他を遵守する
環境対策車等の拡販で、環境への負荷削減に貢献する
グリーン商品等、環境負荷の少ない物品の購入を推進し環境への負荷削減に貢献する
全従業員に、この環境方針を周知徹底するとともに、環境活動報告書を作成・公表する

平成22年 4月 1日 制定
平成22年10月31日 改定
平成23年 6月30日 改定

株式会社 東北マツダ

代表取締役 森 昭 章

中期環境数値目標

中長期CO2排出量数値目標

項目	2013年度実績	2014年度計画	2015年度計画	2016年度計画	2017年度計画	2018年度計画
二酸化炭素排出量	2,806,829	2,778,761	2,750,973	2,723,463	2,696,229	2,669,266
電力使用量	2,174,425	2,152,681	2,131,154	2,109,842	2,088,744	2,067,857
都市ガス使用量	105	104	103	102	101	100
プロパンガス使用量	18,260	18,078	17,897	17,718	17,541	17,365
灯油使用量	67,668	66,991	66,321	65,658	65,001	64,351
ガソリン使用量	455,468	450,913	446,404	441,940	437,521	433,145
軽油使用量	147,931	146,452	144,988	143,538	142,102	140,681
廃棄物排出量	704,215	697,173	690,201	683,299	676,466	669,701
水使用量	54,169	53,627	53,091	52,560	52,035	51,514

項目	2013年度 台数当	2014年度 台数当	2015年度 台数当	2016年度 台数当	2017年度 台数当	2018年度 台数当
二酸化炭素排出量	8.91	8.82	8.73	8.65	8.56	8.47
電力使用量	6.90	6.83	6.77	6.70	6.63	6.56
都市ガス使用量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
プロパンガス使用量	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
灯油使用量	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.20
ガソリン使用量	1.45	1.43	1.42	1.40	1.39	1.38
軽油使用量	0.47	0.46	0.46	0.46	0.45	0.45
廃棄物排出量	2.24	2.21	2.19	2.17	2.15	2.13
水使用量	0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	0.16

購入電力の排出係数については、東北電力2010年度CO2排出原単位：0.326kg-CO2/kWh

環境目標

1. 事業で生じる環境負荷で影響の大きい電力使用量、化石燃料（ガソリン、軽油、プロパンガス、都市ガス）、廃棄物排出量、水使用量の削減に取り組む

項目	単位	2014年度目標 (2013年度比1%削減)
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	2,778,761 (1%)
電力使用量	kwh	2,152,681 (1%)
都市ガス使用量	Nm ³	104 (1%)
プロパンガス使用量	m ³	18,078 (1%)
灯油使用量	ℓ	66,991 (1%)
ガソリン使用量	ℓ	450,913 (1%)
軽油使用量	ℓ	146,452 (1%)
廃棄物排出量	kg	697,173 (1%)
水使用量	m ³	53,627 (1%)

購入電力の排出係数については、東北電力2010年度CO2排出原単位:0.326kg-CO2/kWh

環境目標

2. 事業を通じ環境負荷軽減の効果が大きい商品の販売

- ・スカイアクティブ搭載車販売比率70%

SKYACTIV
TECHNOLOGY

SKYACTIV-G

SKYACTIV-D

SKYACTIV-DRIVE

SKYACTIV-MT

SKYACTIV-BODY

SKYACTIV-CHASSIS

- ・オイル交換時、エコオイル販売促進
定期点検の推奨

マツダセーフティーチェック (MSC)

12ヶ月点検や車検の合間に行う半年ごとの点検です。

法定12ヶ月点検

1年1回の愛車の定期健診です。

法定12ヶ月点検

マツダセーフティーチェック

法定12ヶ月点検

マツダセーフティーチェック



TOHOKU MAZDA



環境目標

3. グリーン商品等環境配慮商品の購入を促進する

グリーン購入ネットワークのエコ商品ネット掲載商品を参考に
一般消耗品他、物資の購入を行う。

グリーン購入調達目標

分野	判断基準	備考	目標
一般消耗品	紙類 エコマーク、グリーンマーク等 環境ラベルの表示がある製 品であること グリーン購入法に基づく判断 基準に合致した商品であるこ と	古紙配合率が可能な限り高 い製品の導入 無塩素漂白パルプ使用製品 の導入 (原料表示参考のこと)	75%以上
	文房具 エコマーク、グリーンマーク等 環境ラベルの表示がある製 品であること グリーン購入法に基づく判断 基準に合致した商品であるこ と	詰め替え可能な製品を導入	
什器	エコマーク、グリーンマーク等 環境ラベルの表示がある製 品であること グリーン購入法に基づく判断 基準に合致した商品であるこ と	修理・部品交換が考慮され た製品を導入	90%以上
OA機器	エコマーク、国際エネルギ ースター等環境ラベルの表示 がある製品であること グリーン購入法に基づく判断 基準に合致した商品であるこ と	使用済製品の回収、適正処 理される購入先を選定	80%以上
電気製品	エコマーク、省エネ性ラベル 等環境ラベルの表示がある 製品であること グリーン購入法に基づく判断 基準に合致した商品であるこ と	使用済製品の回収、適正処 理される購入先を選定	80%以上

目標は購入数量に占めるグリーン商品の割合

※グリーン購入ネットワーク(GPN)ホームページ内「エコ商品ネット」
(<http://www.gpn.jp/econet/>)を参考の上、記載の製品を考慮に入れる



エコマーク



グリーンマーク

R100

R70

R75

R50

R65

R45

R35

Rマーク(再生紙使用マーク)

一般消耗品類はインターネット注文にて、G N P 掲載商品を優先して調達
する。

環境目標

【取組】

- ・自動車販売・整備を通じ環境活動を図る
- ・各店舗の電力・化石燃料・水使用量を集計・管理し啓発を図る

環境考慮商品の販売強化

環境負荷低減に貢献できる商品を選んで頂けるよう、
自社扱い商品・サービスの知識を深める

CO₂排出量削減

電力使用量の削減 不要な照明の消灯 節電の徹底

- ・始業前、昼休みの消灯
- ・離席時パソコンディスプレイ電源OFF
- ・トイレ、会議室、給湯室等未使用時消灯
- ・クールビス、ウォームビス実施
- ・メジャーサインの点灯・消灯時間の厳守
- ・メジャーサインの点灯・消灯時間の厳守

化石燃料使用量の削減

- ・“エコドライブ10のすすめ”実践
- ・社用車の法定点検、日常点検実施徹底
- ・会議等参加時、自動車移動の乗り合い

廃棄物排出量の削減

紙資源使用の抑制（ペーパーレス化推進）

- ・PC会議を促進し、資料はデータ配布
- ・両面・縮小コピーの徹底
- ・プリントアウト前にプレビューの設定確認を徹底
- ・PDFファイルの有効活用
- ・コピー機利用後、設定リセットの徹底

一般ゴミの削減

- ・ゴミの分別徹底
- ・従業員はマイカップの準備
- ・ダンボール等のリサイクル推進

水使用量の削減

漏水の確認 水の適正使用の徹底

- ・水を出したままにしない
- ・月一回各店舗で漏水の確認
- ・洗車用ホース等にストップノズルを装着

グリーン商品の購入促進

- ・消耗品等購入時、グリーン商品への切替を促進
- ・グリーン調達比率目標に沿った物資の購入

活動事例

2014年4月20日、宮城郡七ヶ浜町のボランティアに参加

新入社員を中心に、津波被害を受けた宮城県宮城郡七ヶ浜町のボランティア活動に参加いたしました。



ボランティアに来て下さった皆様へ
七ヶ浜町民からのメッセージです

心より
感謝を込めて
ありがとう
お疲れさまでした、お気をつけて

活動事例

多賀城店復活・リニューアルオープン



東日本大震災により津波被害を受けました、多賀城店を移転・新築をし、2014年4月オープンいたしました。復活までに3年を要しましたが、ショールーム内は全てLED照明を採用など、環境にも配慮した店舗が完成しました。

工場2階には災害時の避難スペースを設けております。

活動事例

長町店リニューアルオープン



2014年8月長町店がリニューアルオープンいたしました。
新世代のマツダ販売店舗第1号の長町店。

活動事例

中央店ショールームリニューアルオープン



2015年2月中央店がリニューアルオープンいたしました。
内装を新世代のマツダ販売店舗に一新いたしました。

活動事例

全社員大会を各事業部同時開催

2014年8月20日、全社員決起大会を各事業部で開催し、その中で管理本部長 藤本よりエコアクション21の活動、コンプライアンスについての講話をいたしました。

会場

秋田事業部：秋田テルサ ホール

岩手事業部：盛岡南ショッピングセンターNACS 多目的ホール

宮城事業部：七ヶ浜国際村 国際村ホール

山形事業部：山形市総合スポーツセンター 大会議室



宮城事業部



(不要不急なものは購入しない)

- ・ エコアクション21継続実施による省エネ取り組み
- ・ 話し合い制度の実施
- ・ コンプライアンスの遵守

活動事例

環境活動についての新入社員研修

2014年4月6日、新入社員に対する環境活動研修をいたしました。



東北マツダの環境方針

【基本理念】

株式会社東北マツダは自動車販売、整備等全ての事業活動を通じ、継続的に環境への負荷の軽減に取り組み、地域環境・地球環境保護に貢献します。

【環境保全に向けての活動指針】

地球温暖化防止に向け二酸化炭素排出量削減・省エネルギーへの取組をする

循環型社会に向け、使用済み自動車・廃棄物リサイクル

事業活動に適用される環境関連法規その他を遵守

環境対策車等の拡販で、環境への負荷削減に貢献

グリーン商品等、環境負荷の少ない物品の購入を推

全従業員に、この環境方針を周知徹底するとともに、

2



東北マツダの一員として

・ 東北マツダはE A 2 1 認証・登録取得企業です



エコアクション21

認証・登録番号 0006843

活動事例

学校へニュース掲示板寄贈



毎年、CSRの一環として地域の学校へ、ニュース掲示板を寄贈しておりますが、今年度は山形事業本部近隣の山形県立山形中央高等学校への寄贈を行いました。

活動事例

〈トピック〉多賀城店環境活動

2011年3月11日に東日本大震災に伴い津波被害を受けた多賀城店。

旧多賀城店は多賀城市明月にあり1メートルを越す津波を受けました。

店舗従業員も運転中に車ごと波に流れるなどありましたが、幸いなことに弊社従業員の人的被害はございませんでした。

しかし、店舗の被害は甚大で一時閉鎖をしなければなりませんでした。

大震災から3年、確実に復興へと進んでいる多賀城市に多賀城店を復帰することができました。旧多賀城店から西へ700m。道路は1本違いますが、同地区に4月18日、グランドオープンいたしました。

地域に根ざした店舗、頼られる店舗になるべく活動を進めて行きたいと思います。



環境活動の取組結果と評価

1. 環境負荷削減

1)2014年4月1日～2015年3月31日の実績

項目	単位	2014年度目標	2014年度実績	目標達成率	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO2	2,778,761	3,273,065	84.9%	×
電力使用量	khw	2,152,681	3,085,396	69.8%	×
都市ガス使用量	Nm ³	104	150	69.3%	×
プロパンガス使用量	m ³	18,078	4,359	414.7%	○
灯油使用量	ℓ	66,991	71,911	93.2%	×
ガソリン使用量	ℓ	450,913	448,791	100.5%	○
軽油使用量	ℓ	146,452	197,722	74.1%	×
廃棄物排出量	kg	697,173	502,940	138.6%	○
水使用量	m ³	53,627	40,169	133.5%	○

電気二酸化炭素排出係数は平成20年度の電気事業者別実排出係数・調整後排出係数等の公表についてより、算定省令に基づく電気事業者ごとの実排出係数及び代替値より東北電力分 2010年度CO2排出原単位:0.326kg-CO2/kWh

2014年4月1日～2015年3月31日の台数当り実績 前年対比

項目	単位	2013年度 総台数当数値 －1%	2014年度 総台数当数値	前年差	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO2	8.82	10.97	80.4%	×
電力使用量	khw	6.83	10.34	66.1%	×
都市ガス使用量	Nm ³	0.00	0.00	0.0%	×
プロパンガス使用量	m ³	0.06	0.01	406.6%	○
灯油使用量	ℓ	0.21	0.24	86.3%	×
ガソリン使用量	ℓ	1.44	1.50	95.4%	×
軽油使用量	ℓ	0.47	0.66	70.2%	×
廃棄物排出量	kg	2.22	1.69	131.6%	○
水使用量	m ³	0.17	0.13	125.0%	○

総台数＝販売台数(新車+中古車販売台数)＋整備総入庫台数

環境活動の取組結果と評価

1. 環境負荷削減

2)取組結果の評価

項目	評価	
二酸化炭素排出量	×	下記要因により二酸化炭素排出量目標を達成できなかった。 各項目使用状況の自己チェック、改善の検討を各店舗で徹底することが必要
電力使用量	×	昨年と比べ1店舗（多賀城店）増、改装中の店舗があった影響で光熱にかかる項目の使用量が増加したと思われる。 ガス・灯油使用量もムラがある為、適正使用を徹底するとともに、再度実績値を見直し、計画に反映させることが必要
都市ガス使用量	×	
プロパンガス使用量	○	
灯油使用量	×	
ガソリン使用量	○	11月より、ガソリン・軽油の購入運用方法を変更し適正使用徹底を進めたが、CX-5の販売台数の内82%、またアテンザの76%がSKYACTIV-D（ディーゼルエンジン）搭載車になっており、軽油購入量が増え、ガソリン購入量が減ったと考えられる。 燃料の適正使用を徹底するとともに、販売構成を加味した計画が必要。
軽油使用量	×	
廃棄物排出量	○	廃オイル、廃タイヤの再資源化の為に有償排出を進めることにより、排出量が抑えられた。
水使用量	○	節水の意識が高まり使用量減につながった。 自動洗車機設置拠点が増える予定の為、今後の使用量に注意

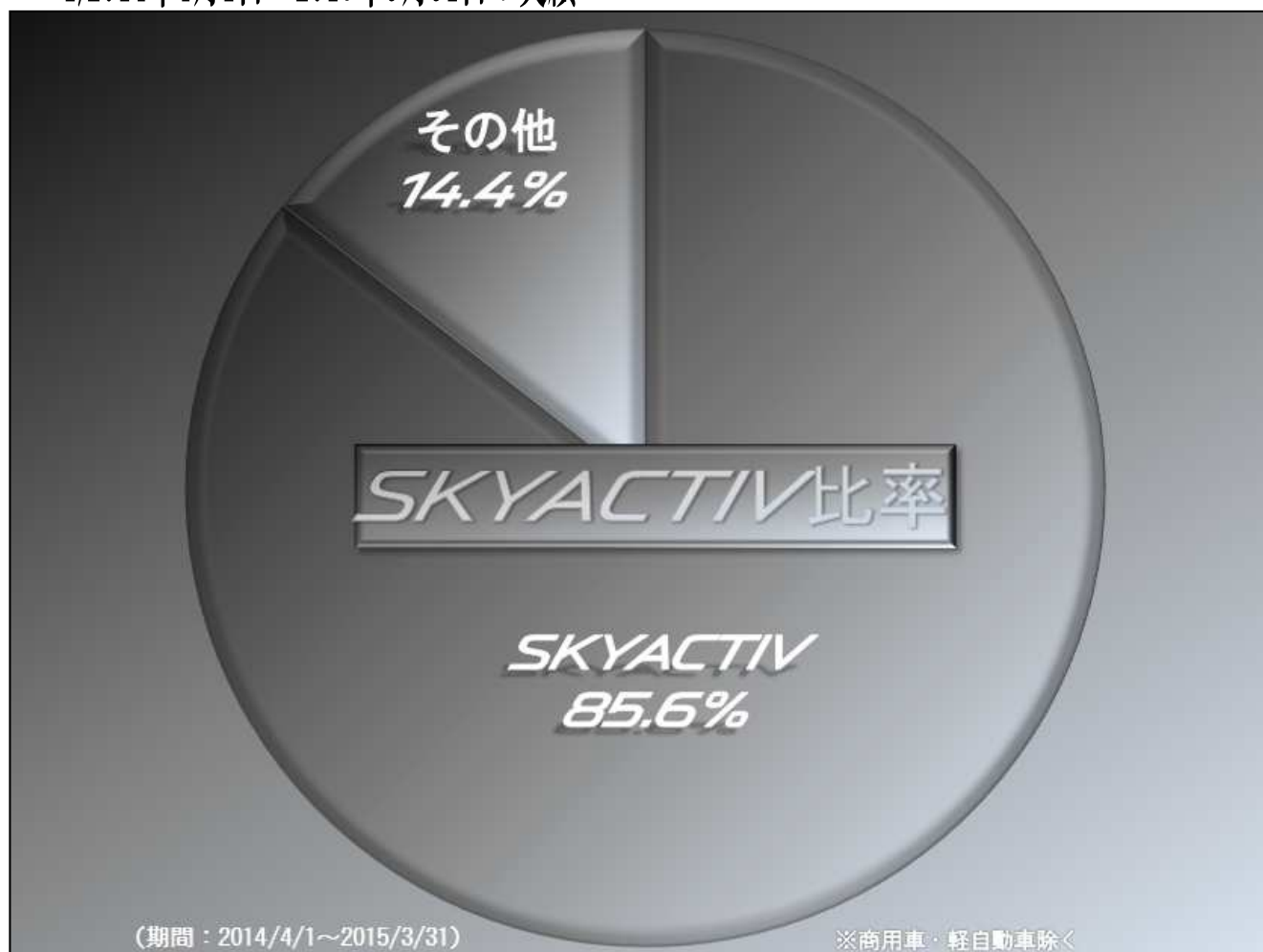


本部・小田原店

環境活動の取組結果と評価

2. 環境負荷軽減の効果が大きい商品の販売

1) 2014年4月1日～2015年3月31日の実績



商用車・軽自動車を除く新車販売車のSKYACTIV搭載車割合が8割を超えた。

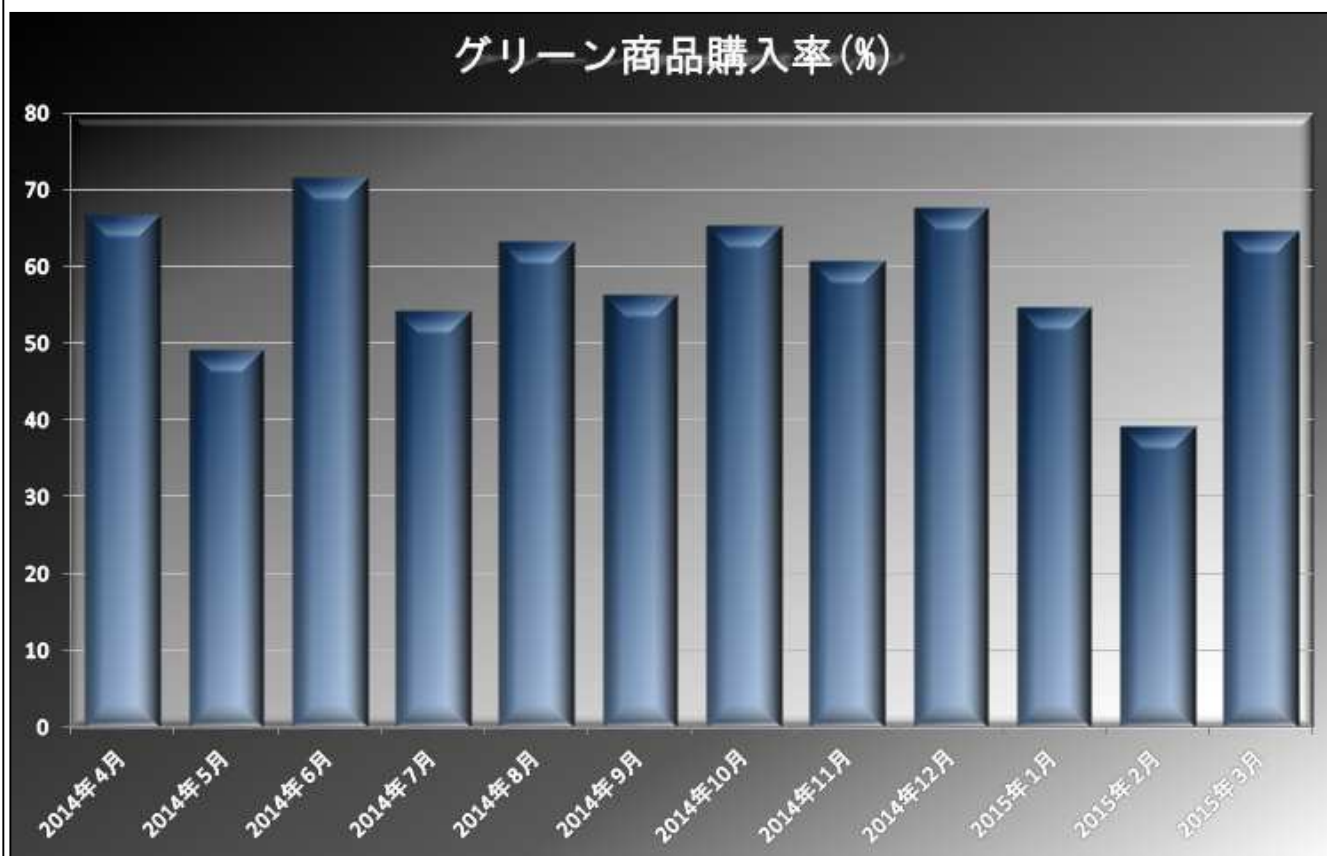
CX-5、アテンザ、アクセラ、デミオ、CX-3とSKYACTIV搭載車のラインナップが充実したことで販売の比率もUPした。

今期発売開始のCX-3はSKYACTIV-D（ディーゼルエンジン）専用の設定、CX-5、アテンザ、アクセラスポーツ、デミオはSKYACTIV-G（ガソリンエンジン）とSKYACTIV-D搭載車が選べ、またアクセラセダンはSKYACTIV-GとSKYACTIV-HYBRID（ハイブリッド）を選択でき、お客様に車の使用状況等に応じた選択をして頂け、環境に貢献できた。

環境活動の取組結果と評価

3. グリーン商品等環境配慮商品の購入促進

1) グリーン購入（一般消耗品）実績（2014.4～2015.3）



購入金額に占めるグリーン商品の割合

2) グリーン商品購入実績(2014.4.1～2015.3.31,消耗品)及び評価

グリーン購入目標（一般消耗品75%）に対し、年間集計結果が58.6%となった。

購入品目を検証した結果、エコマーク・グリーン購入法・GNP掲載以外が多かったのが、洗剤で注文数全体の12%。また、店舗新築・リニューアル時の備品の選定が価格重視になってしまった為、比率悪化に繋がった。

発注時の商品選定はGNP掲載商品優先を徹底するとともに、会社標準の一般消耗品品目を増やす。

環境活動の取組結果と評価

4.その他環境活動

社会貢献活動

2014年4月20日、七ヶ浜町のボランティアに参加

2014年7月、朝日写真ニュース1年分及び専用掲示板一式を山形県立山形中央高等学校へ寄贈。

地域貢献として、災害後のボランティアに参加、学校へのニュース掲示板の寄贈を毎年実施しております。

ボランティアへの参加は社員教育の一環としての意味合いを含め、新入社員を中心に参加いたしております。

写真ニュース掲示板の寄贈は3回目になります。朝日写真ニュース社様の「私たちの地球を守ろう」キャンペーンに賛同し、道徳的スローガン付の朝日写真ニュース専用掲示板を寄贈いたしております。

各活動を通して微力ながら地域に貢献できたのではないかと思います。

mazda

環境活動の取組結果と評価

4.その他環境活動

化学物質適正取扱

取扱化学物質について、取扱量を把握し、適切に管理しております。

事業部	事業所	対象物質	年間取扱量 (kg)		指定量 (kg)		
秋田事業部	※1 板金塗装第一工場	トルエン	70.9	≤	1,000		
		キシレン	95.7	≤	1,000		
	※1 板金塗装第二工場	トルエン	39.2	≤	1,000		
		キシレン	238.4	≤	1,000		
宮城事業部	※2 仙台ボディセンター	トルエン	1,193.4	≥	1,000	届出対象	宮城県届出済
		キシレン	1,410.2	≥	1,000	届出対象	宮城県届出済
山形事業部	※2 ボディーリペアショップ	トルエン	566.7	≤	1,000		
		キシレン	708.8	≤	1,000		

※1 秋田事業部は購入製品ごとに含有量を集計し取扱量を算出しております。

※2 宮城・山形事業部は指定物質含有率を、塗料0.35・シンナー0.3、
比重を、塗料・シンナー共0.87を各々購入量に掛けて取扱量を算出しております。

mazda

環境関連法規等への違反・訴訟の有無

1. 環境関連法規等

環 境 関 連 法 規 等		評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律		
・廃棄物の適正処理 ・マニフェストの管理	認可業者に廃棄物処理を依頼している 期限内にマニフェストがそろっている	○
自動車リサイクル法		
・使用済自動車（ＥＬＶ車）の適正処理 ・引取事業者の登録	ＥＬＶ車を預かった際、適正に処理している 引取業者登録をしている	○
浄化槽法		
・保守点検 ・清掃記録	年１度以上の保守点検・水質検査をしている	○
騒音規制法		
・特定施設の届出（エアコンプレッサ）	該当施設は届出している （法令・条例以上のもの）	○
振動規制法		
・特定施設の届出（エアコンプレッサ）	該当施設は届出している （法令・条例以上のもの）	○
消防法		
・少量危険物の届出（貯蔵所、取扱書）	該当施設は届出している （法令・条例以上のもの）	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律		
・エネルギー使用量の把握（省エネ法）	エネルギー使用量を把握している	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法・ＰＲＴＲ法）		
・特定化学物質の排出量・移動量の把握 ※第一種指定化学物質の年間取扱量指定値以上の事業所は届出対象	該当拠点は届出している	○
水質汚濁防止法		
・特定施設の届出（自動式車両洗浄施設）	該当施設は届出している	○
下水道法		
・特定施設の届出（自動式車両洗浄施設）	該当施設は届出している	○

2. 違反・訴訟の有無

自己評価の結果、環境関連法規等の違反はなく、また過去３年間、関係機関からの処分も受けておりません。
同様に訴訟等についても、１件もありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し

代表者による全体の評価と見直し結果の記録

見直し年月日	平成27年 8月 7日(時間16:30 ~ 17:00)
場 所	株式会社東北マツダ 本社会議室
出席者	森脇社長 藤本本部長 名久井部長 村上
見直し結果	下記のとおり

見直し 関連情報	点検項目	環境管理責任者の説明概要、提案等 参考資料
	環境目標及び達成状況	参考資料：CO2 排出量シート、環境への負荷の自己チェックシート等
	環境活動計画及び実施状況	中期目標の見直しを提案
	環境関連法規の遵守状況	参考資料：法令チェックシート等
	外部からの苦情・要望関連事項	該当なし
	是正及び予防処置の状況	参考資料：EA21 更新審査総合評価
	内部監査結果	参考資料：監査グループ監査報告書
	前回までの代表者指示事項への対応	参考資料：中期目標、組織図
	その他	

代表者による 全体評価と 見直し	点検項目	見直し 要否	代表者による指示事項
	環境方針	要 否	化学物質の適正管理、水資源の節約を方針に追加すること
	環境目標	要 否	2014 年度からの中期数値目標について、店舗の増加・リニューアル・入庫量などを考慮し、現実的な目標を再策定すること
	環境活動計画	要 否	再策定した中期目標に合った活動計画を策定すること 活動の監査項目を明確にすること
	環境関連法規の遵守	要 否	法令等の改正に早急に対応すること
	実施体制	要 否	特になし
	苦情・要望対応	要 否	特になし
	その他	要 否	特になし

〈代表者の総合評価・コメント〉 (環境経営システムの有効性、環境への取組の適切性等)
エコアクション21 更新審査時の推奨事項・指導事項を着実に実行に移せるよう対応すること。

代表者による全体の評価と見直し

代表者総論

法令遵守

エコアクション21をガイドラインに本格的に活動して4年が経ちますが、自社の事業活動が環境に繋がっていると気付かされることがまだまだ沢山あります。中でも法令等に関しましては法改正や自社の販売商品の状況などにより、日々変化しております。

法令等改正につきましては、当社といたしましても対応に力を入れているところでございます。

直近では、改正フロン法が2015年4月から施行されておりますので、対応を進めるよう指示いたしました。

次頁へ



代表者による全体の評価と見直し

自社販売商品

2014年度も、「スカイアクティブ」搭載車が発売になり、好評を得ているところでしたが、期初から長く消費増税の反動に苦しみました。しかし、1～3月には昨年度1～3月の消費税駆け込み需要以上の販売台数になりました。

2011年6月発売の先代デミオから、昨年秋に発売の新型デミオ、2月に発売のCX-3まで、基本であるベース技術の改善により磨きを掛けたスカイアクティブ技術が皆様に浸透してきたものと思います。

当社の乗用車販売のスカイアクティブ搭載車の販売比率は、2013年度(2014年3月期)で73.7%、2014年度(2015年3月期)で85.6%となりました。商品ラインナップが充実してきたことありますが、このスカイアクティブを多くのお客様に、優れた環境性能と快適なカーライフをお届けできていると思っています。

2015年度はロードスターがモデルチェンジをして登場いたします。お客様からの期待も高く、事前予約・契約が入っております。

次頁へ



代表者による全体の評価と見直し

設備

震災以降閉鎖しておりました多賀城店を新築し4月オープンいたしました。多賀城店には先の震災の経験から、広い訳ではありませんが工場の2階に避難場所を設け、避難してきた方も受入られるスペースを確保いたしました。照明もLED化し、車両検査機器も先端設備を導入いたしました。

7月には長町店を移転新築でオープンいたしました。この長町店はマツダグループで進めております新世代店舗の日本第1号店となります。設計からマツダのデザイン本部が監修し当社販売車がとても映える店舗となっております。この店舗が新世代第1号店舗ということもあり、海外からも視察に来られ注目の店舗です。もちろんデザインだけでなく、照明等もLEDを使用するなど環境に配慮したものになっております。

また、この3月には秋田事業部の中央店が内装を改装しオープンいたしました。コンセプトを長町店と同じく、車の映える綺麗な店舗になりました。元々が築30年以上の店舗でしたが、設備も最新の物に更新し、お客様からも好評です。

2015年度に入ってからですが、岩手事業部の上堂店も改装オープンいたしました。上堂店は内外装とも新世代店舗へ生まれ変わりました。

今年度以降も順次設備の更新を行う計画でおります。デザインももちろんですが、環境・法令等に対応した設備の導入を進めてまいります。

次頁へ

代表者による全体の評価と見直し

本業のディーラー業といたしまして、スカイアクティブ搭載車の販売比率も上昇し、車の販売を通じて環境負荷低減に寄与できたのではないかと考えております。

また、2014年度で3校目になりましたニュース掲示板の寄贈も好評頂いており、2015年度も寄贈先を岩手事業部エリアから選定させているところでございます。

そして、新入社員研修の一環としてボランティア活動をしております。震災の次の年から始め、今年で4回目になりました。2014年度は七ヶ浜のボランティア団体のお手伝いに伺いました。社会貢献として行っていることはもちろんなのですが、新入社員同士のチームワークが強くなり、当社にとってもとても良い活動をさせていただきました。

環境も、経営も、継続・改善・向上していくことが重要と考えます。

会社を守る、持続していくことのシステムとしてのエコアクション21を活用して、今後も経営に役立てて行きたいと思っております。

2015年4月



エコアクション21
認証・登録番号 0006843

株式会社 東北マツダ
代表取締役 森脇 章

次年度活動計画案

環境方針の項目追加
(化学物質適正管理・水資源適正使用)

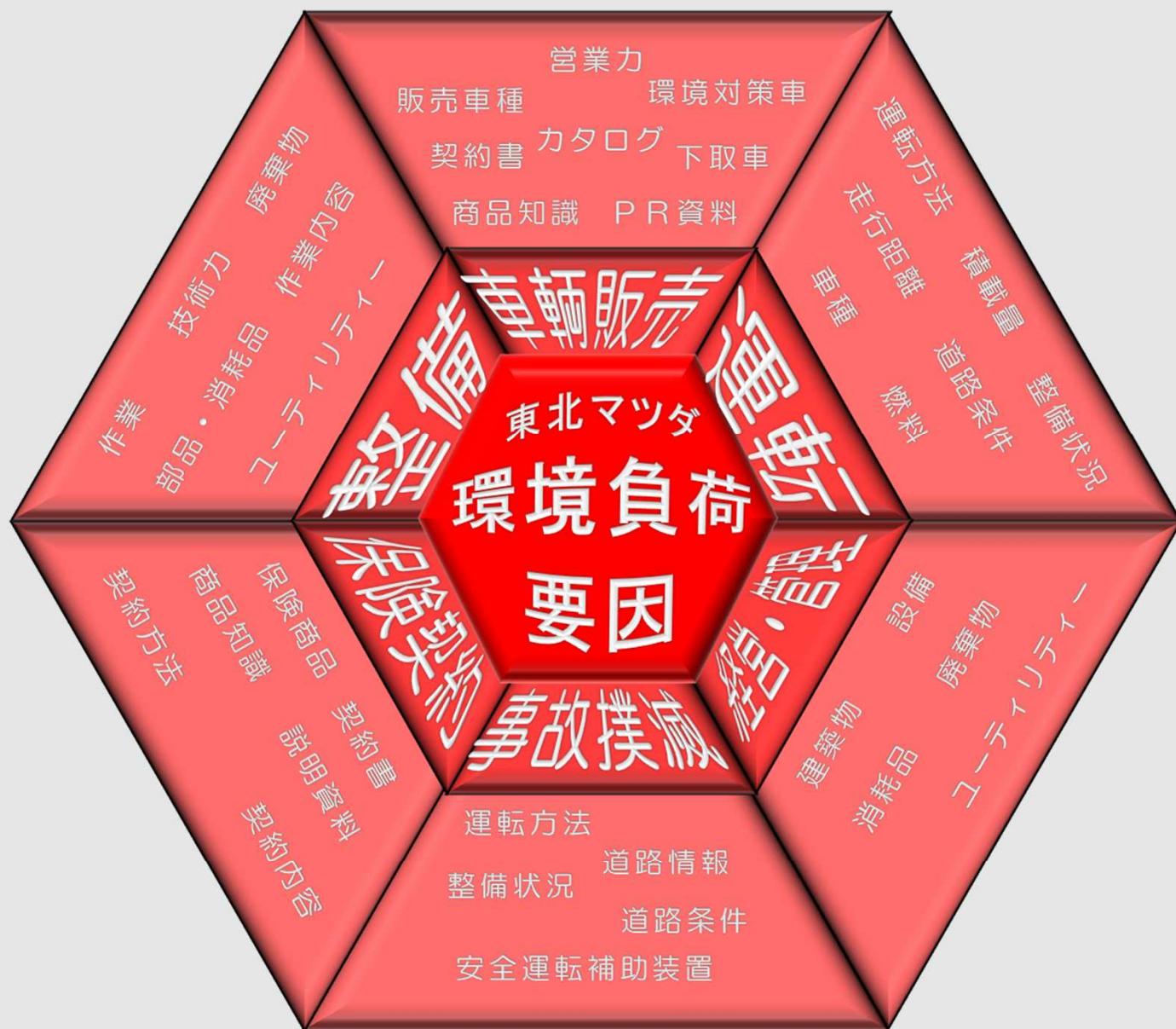
中長期計画数値の見直しを実施

ニュース掲示板寄贈の継続実施

新入社員研修でのボランティア活動継続

mazda

【付記】東北マツダ環境負荷要因図



労働力

業務効率

環境意識

